令和８年度　小平第三中学校　授業改善推進プラン

美術科　１年生

１　日常の学習状況について

授業規律がしっかりしている生徒が多い。準備や片付けもほとんどの生徒がきちんと行っている。作品制作では、豊かな発想で取り組めているが、技能面で表現することに自信がない生徒が多い。

２　学力調査等（定期考査）の結果の観点別分析

定期考査において、授業プリントの内容が出題範囲であったが、知識の定着に差が見られた。

３　教科の指導上の課題（授業評価アンケートより）　◎そう思う　〇ややそう思う

①授業規律が守られ、授業に集中できる環境が整っている。　（◎50%　〇29.1%）◎＋〇＝79.1%
②授業のねらいや流れがはっきりしていて見通しがもてる。　（◎55.2%　〇28.3%）◎＋〇＝83.5%
③授業内容や指示・説明が分かりやすい。　（◎53%　〇28.7%）◎＋〇＝81.7%
④意欲的に取り組めるような授業になっている。　（◎56.1%　〇29.1%）◎＋〇＝85.2%
⑤板書やプリント、ICT 機器の活用等が工夫され、理解が深まる。（◎53%　〇28.3%）◎＋〇＝81.3%

⑤の結果から、ICT 機器を効果的に活用していると実感している生徒が少ないことが分かる。

４　授業改善について

・定期考査に向け、授業で用語だけ教えるのではなく、「どういう意味があるのか」「なぜそうなるのか」を説明する。一度だけでなく振り返り等行うことで、知識の定着を図る。
・本番の制作に入る前に基本的な技能を練習し、難しいところは個別に支援するなどして不安を取り除く。
・生徒が持っている学習者用端末を活用し、黒板に貼る掲示物だけでなく、作品見本を手元で各自のペースで鑑賞させるなど、ICT 機器により理解を深める。
・美術という教科が特別なものではなく、日常生活に関連があるということに気付かせ、意欲的に制作に取り組ませる。そのために、課題設定を工夫したり、導入部分で日常生活とのつながりにふれたりする。

５　成果の確認

成果については、「定期考査の正答率」「作品の評価」により確認する。

令和８年度　小平第三中学校　授業改善推進プラン

美術科　２年生

１　日常の学習状況について

授業規律がしっかりしている生徒が多い。準備や片付けもほとんどの生徒が素早く行っている。作品制作では、静かに集中して取り組めているが、技能面で表現することに自信がない生徒が多い。生徒が持っている学習者用端末で、各自手元で作品見本を鑑賞したり、アイデアスケッチのモチーフを調べたり発想したりする等、ICT 機器を積極的に活用する様子が見られた。

２　学力調査等（定期考査）の結果の観点別分析

定期考査において、重要度の高い用語や実技問題の内容を事前に周知したことで、生徒自ら対策し、問題に取り組むことができた。時間配分も意識することができた。知識の観点では、授業プリントの内容が出題範囲であったが、知識の定着に差が見られた。

３　教科の指導上の課題（授業評価アンケートより）　◎そう思う　〇ややそう思う

①授業規律が守られ、授業に集中できる環境が整っている。　（◎59.9%　〇34.9%）◎＋〇＝94.8%
②授業のねらいや流れがはっきりしていて見通しがもてる。　（◎54.7%　〇37.5%）◎＋〇＝92.2%
③授業の説明が分かりやすい。　（◎50.0%　〇36.6%）◎＋〇＝86.6%
④意欲的に取り組めるような授業になっている。　（◎50.0%　〇38.8%）◎＋〇＝88.8%
⑤板書やプリント、ICT 機器の活用等が工夫され、理解が深まる。（◎50.0%　〇41.4%）◎＋〇＝91.4%

③④の結果から、授業内容が分からず意欲的に取り組めていない生徒がおり、美術に対する苦手意識があると考えられる。

４　授業改善について

・定期考査に向け、授業で用語だけ教えるのではなく、「どういう意味があるのか」「なぜそうなるのか」を説明する。一度だけでなく振り返りを行うことで、知識の定着を図る。
・本番の制作に入る前に基本的な技能を練習し、難しいところは個別に支援するなどして不安を取り除く。
・生徒が ICT 機器をよく活用していることから、学習者用端末での作品見本の鑑賞は継続しつつ、用語の解説や制作内容も動画や書画カメラ等を活用し、理解を深める。
・美術という教科が特別なものではなく、日常生活に関連があるということに気付かせ、意欲的に制作に取り組ませる。そのために、課題設定を工夫したり、導入部分で日常生活とのつながりにふれたりする。

５　成果の確認

成果については、「定期考査の正答率」「作品の評価」「振り返りシート」により確認する。

令和８年度　小平第三中学校　授業改善推進プラン

美術科　３年生

１　日常の学習状況について

授業規律がしっかりしている生徒が多い。準備や片付けもほとんどの生徒が素早く行っている。作品制作では、静かに集中して取り組めているが、技能面で表現することに自信がない生徒が多い。

２　学力調査等（定期考査）の結果の観点別分析

定期考査において、重要度の高い用語や実技問題の内容を事前に周知したことで、生徒自ら対策し、問題に取り組むことができた。時間配分も意識することができた。知識の観点では、授業プリントの内容が出題範囲であったが、知識の定着に差が見られた。

３　教科の指導上の課題（授業評価アンケートより）　◎そう思う　〇ややそう思う

①授業規律が守られ、授業に集中できる環境が整っている。　（◎76.6%　〇20.3%）◎＋〇＝96.9%
②授業のねらいや流れがはっきりしていて見通しがもてる。　（◎72.1%　〇20.3%）◎＋〇＝92.4%
③授業の説明が分かりやすい。　（◎67.5%　〇25.4%）◎＋〇＝92.9%
④意欲的に取り組めるような授業になっている。　（◎69.0%　〇25.4%）◎＋〇＝94.4%
⑤板書やプリント、ICT 機器の活用等が工夫され、理解が深まる。（◎62.9%　〇27.9%）◎＋〇＝90.8%

⑤の結果から、ICT 機器を効果的に活用していると実感している生徒が少ないことが分かる。

４　授業改善について

・定期考査に向け、授業で用語だけ教えるのではなく、「どういう意味があるのか」「なぜそうなるのか」を説明する。一度だけでなく振り返り等行うことで、知識の定着を図る。
・本番の制作に入る前に基本的な技能を練習し、難しいところは個別に支援するなどして不安を取り除く。
・生徒が持っている学習者用端末を活用し、黒板に貼る掲示物だけでなく、作品見本を手元で各自のペースで鑑賞させたり、用語の解説や制作内容も動画や書画カメラ等を活用したりして理解を深める。
・美術という教科が特別なものではなく、日常生活に関連があるということに気付かせ、意欲的に制作に取り組ませる。そのために、課題設定を工夫したり、導入部分で日常生活とのつながりにふれたりする。

５　成果の確認

成果については、「定期考査の正答率」「作品の評価」「振り返りシート」により確認する。